

プチット・フランス

旧市街の周囲を流れるイル川が細かく分岐しているエリアで、アルザス地域の伝統的な木組みの建物がたくさん残っています。



世界の地域から

ストラスブール市 (フランス共和国)

「道の町」を意味するストラスブールは、パリから東に約300km、TGVで約2時間20分のドイツ国境近くに位置するフランス第7の都市（人口約27万人）。アルザス州の州都であるとともに、バ・ラン県の県庁所在地でもあります。

また、古来交通の要衝として栄え、仏独間の争奪の対象ともなったストラスブールは、現在では欧州評議会や欧州議会等が設置されるなど、ヨーロッパ統合の象徴的な都市となっています。



欧州評議会、欧州議会

町の東北部には、欧州評議会や欧州議会の本部が置かれています。旧市街とは対照的な近代的な建築物が立ち並んでおり、この町の「ヨーロッパ都市」としての性格をよく表しています。



欧州議会と桜並木



欧州評議会



欧州評議会の本会議場



ノートルダム大聖堂

ユネスコの世界遺産にも登録されているストラスブールのグラン・ディール(旧市街)の中で、圧倒的な存在感を示している町のシンボル。尖塔の高さは142mで、1176年から250年以上の歳月をかけて建造されました。聖堂内では名物の天文時計が毎日時を告げています。

ノートルダム大聖堂遠景



ノートルダム大聖堂の塔から眺めた旧市街



ノートルダム大聖堂天文時計

街並み

町中には1994年からバリアフリーのトラムが運行されています。また、旧市街の多くの道路は歩行者専用となっており、人にやさしいまちづくりが進んでいます。



くつろぐ人



遊覧船



ロム・デウ・フェル広場



アルザスビール (グラスのコウノトリは町のシンボル鳥)



名物菓子クグロフ

食べ物

アルザス料理は、ドイツの影響を強く受けています。